



CHAPTER 15

通知の使用方法

Cisco Prime Unified Operations Manager (Prime UOM) は、IP テレフォニー環境および IP ファブリックで発生するイベントに対応してイベント情報を表示します。

イベントは、Device Events Summary などの Prime UOM ダッシュボードで確認できます。また、他のホストの SNMP トラップデーモン、syslog デーモン、およびユーザにイベントに関する情報を転送するように通知を設定することもできます。

次の各項では、通知の概念と通知の管理手順について説明します。

- 「通知について」(P.15-1)
- 「イベントセットの設定」(P.15-5)
- 「通知の設定」(P.15-7)

通知について

ここでは、Prime UOM が通知を送信するタイミングを決定する方法と、通知を設定するために理解しておく必要のある概念を説明します。



(注)

通知は、デバイスのコンポーネントではなく、デバイスのロールごとにイベントを監視します。サポートされるイベントと、イベントが発生するデバイスのロールのリストについては、付録 E 「処理されるイベント」を参照してください。

この項の構成は、次のとおりです。

- 「Prime UOM が通知を送信する場合」(P.15-2)
- 「通知グループ」(P.15-2)
- 「通知基準」(P.15-2)
- 「通知の種類」(P.15-3)
- 「通知のシステムおよびユーザの設定」(P.15-4)
- 「特定のイベントに通知を制限」(P.15-4)

Prime UOM が通知を送信する場合

Prime UOM では、イベントごとに、イベント、デバイス、重大度、および状態を、設定された通知グループと比較し、一致するものがあれば通知を送信します。ユーザが設定したイベントセットと通知基準によって一致を決定することができます（通知基準の設定手順については、「[通知の設定](#)」(P.15-7) を参照してください）。

Prime UOM は、各イベントに 1 つの重大度を割り当て、デバイスに対するユーザの入力やデバイスでの変更に応じて時間の経過とともにイベントの状態を変化させます。表 15-1 (P.15-2) に、重大度の値と、時間の経過に伴うイベントの状態の変化を示します。



(注)

イベント名は、わかりやすい名前に変更することができます。また、Prime UOM からの通知で送信されるイベントの重大度をデフォルト値からユーザ定義の値に変更することもできます。「[イベントのカスタマイズ](#)」(P.E-93) を参照してください。

表 15-1 イベントの重大度とステータス

Prime UOM における、重大度とステータスによるイベントの分類

Severity	Critical Warning Informational
Status	Active : イベントはライブ状態です。 Acknowledged : ユーザが手動でイベントの確認応答をしました。ユーザは、アクティブなイベントにだけ確認応答を実行できます。 Cleared : イベントはアクティブではありません。 クリアされたイベントは、有効期限切れになるか、一時停止デバイスに関連付けられている場合は、ユーザがそのデバイスを再開または削除するまで Prime UOM に残ります。

通知グループ

通知グループは、通知の生成と送信に関するユーザ定義のルールセットです。通知グループは、次のもので構成されます。

- 通知基準：通知が生成される理由の名前付きのセット。
- 通知タイプ：送信する通知のタイプ。SNMP トラップ、電子メール、または syslog です。
- 通知の受信者：SNMP トラップ、syslog メッセージ、または電子メールアドレスをリスニングするシステムのホスト名とポート。
- 毎日の登録アクティビティ期間：通知の送信対象となるイベントの監視中に Prime UOM がこの登録を使用する時間帯。

通知基準

通知基準は、通知を送信するための監視対象項目を定義したものです。通知基準は、デバイスまたは電話、および特定の重大度とステータスを持つイベントのユーザ定義のセットに名前を付けたものです。通知グループを設定するには、通知基準を指定する必要があります。

Prime UOM は、次の 3 種類の通知基準をサポートします。

- デバイスベースの基準：次の項目で構成されます。
 - デバイス：監視するデバイス、デバイス グループ、またはクラスタ。
 - イベントセット：(任意)。監視する 1 つ以上のイベント グループ。「特定のイベントに通知を制限」(P.15-4) を参照してください。
 - イベントの重大度とステータス：複数のイベント重大度レベルおよびステータス。
また、通知で表示されるデバイスベースのイベントの名前と重大度もカスタマイズすることができます。
- サービス品質ベースの基準：次の項目で構成されます。
 - 電話、エンドポイント、またはプローブ：監視する電話、コールのエンドポイント、またはプローブ。
 - イベントの重大度とステータス：複数のイベント重大度レベルおよびステータス。
通知で表示されるサービス品質ベースのイベントの名前と重大度をカスタマイズできません。
サービス品質ベースの基準は、Service Monitor のライセンスを購入し、Prime UOM を Service Monitor のトラップ レシーバとして設定している場合に便利です。サービス品質ベースの基準には、イベントセットは含まれません。
- 電話ベースの基準：次の項目で構成されます。
 - 電話：監視する電話。
 - イベントの重大度とステータス：複数のイベント重大度レベルおよびステータス。

通知の種類

Prime UOM には、SNMP トラップ、電子メール、syslog の 3 種類の通知があります。通知グループを設定するときには、送信する 1 つ以上の通知タイプと、各タイプの通知の受信者を指定する必要があります。

この項の構成は、次のとおりです。

- 「SNMP トラップ通知」(P.15-3)
- 「電子メール通知」(P.15-4)
- 「syslog 通知」(P.15-4)

SNMP トラップ通知

Prime UOM は、その発生原因となったイベントに関する情報を持ったトラップを生成します。トラップ メッセージの形式は、CISCO-EPM-NOTIFICATION-MIB で定義されています。詳細については、付録 D 「通知 MIB」を参照してください。

SNMP トラップ通知の使用は、Prime UOM で処理する前に raw トラップを別のサーバに転送することとは異なります。Prime UOM で転送可能な raw トラップについては、付録 C 「識別されていないトラップ」を参照してください。

電子メール通知

Prime UOM は、その発生原因となったイベントに関する情報を持った電子メール メッセージを生成します。このメッセージは CISCO-EPM-NOTIFICATION-MIB で定義され、テキスト形式で電子メールに含まれます。電子メールの登録を作成するときには、サブジェクト行だけを含めるか、電子メールメッセージ全体を含めるかを選択できます。

syslog 通知

Prime UOM は、リモートシステムの syslog デーモンに転送可能な syslog メッセージを生成します。syslog メッセージは 1,024 文字までに制限されています（見出しを含む）。この syslog の制限のため、syslog ベースのイベントの詳細には完全な情報が含まれない可能性があります。syslog メッセージがこの制限を超えた場合、syslog の送信側によって 1,024 文字に切り捨てられます。

通知のシステムおよびユーザの設定

通知グループを設定するときには、通知タイプごとに受信者を指定する必要があります。

- SNMP トラップ：ホストがトラップを受信できるポート番号に SNMP トラップを送信します。Prime UOM は、デフォルトではポート 162 に SNMP トラップを送信します。ただし、別のポートを指定することもできます。
- 電子メール：1 つ以上のアドレスに電子メールを送信します。
- syslog：指定されたポートで syslog デーモンがリスニングを行うように設定されているリモートシステムに対して、syslog メッセージを送信します。Prime UOM は、デフォルトではポート 514 に syslog メッセージを送信します。ただし、別のポートを指定することもできます。

複数の宛先に通知を送信できます。トラップおよび syslog の場合、最大 20 の宛先を追加できます。電子メールの場合、入力できる宛先の数、電子メールの ID 文字列の長さおよびメール サーバ設定によって異なります。

特定のイベントに通知を制限

Prime UOM が監視するイベントのサブセットだけについて通知を送信したい場合があります。目的のイベントは、通知基準を定義するときに、次のように設定することができます。

- デバイススペースの通知基準ごとに、1 つのイベント セットを指定します。イベント セットは必要なだけ作成することができます。
- サービス品質ベースの通知基準では、Prime UOM で監視するイベントを選択します。サービス品質ベースのイベントは数が少ないため、サービス品質ベースの通知基準を追加または編集するときにそれらの中からイベントを選択することができます。

イベントセットの設定

イベントセットを使用すると、通知の送信のために Prime UOM で監視するイベントをグループ化することができます。

同時にアラームを設定した場合、イベントセットは使用できません。情報をイベントセットの選択内容に制限する場合、アラーム機能をオフにします。

この項の構成は、次のとおりです。

- [イベントセットの追加と編集](#)
- [「イベントセットの表示」\(P.15-6\)](#)
- [「イベントセットの削除」\(P.15-7\)](#)
- [「処理されるイベント」\(P.E-1\)](#)

イベントセットを設定するには、[Notifications] > [Event Sets] を選択します。

[Event Set] ページが表示されます。このページは、次の情報を表示します。

GUI 要素	説明/処理
[Check Box] カラム	チェックボックスを 1 つ選択して、イベントセットを編集、削除、または表示します。
[Name] カラム	イベントセット名。
[Description] カラム	イベントセットの説明。
[Add] ボタン	クリックするとイベントセットが追加されます。 「イベントセットの追加と編集」(P.15-6) を参照してください。
[Edit] ボタン	クリックしてイベントセットを編集します。 「イベントセットの追加と編集」(P.15-6) を参照してください。
[View] ボタン	クリックするとイベントセットが表示されます。 「イベントセットの表示」(P.15-6) を参照してください。
[Delete] ボタン	クリックするとイベントセットが削除されます。

イベントセットは、次の目的に使用できます。

- Prime UOM の通知で監視対象となるイベント数の制限。イベントセットを使用しない場合、Prime UOM の通知では、通知を送信するかどうかを決定するためにすべてのイベントが監視されます。
- 異なる複数の宛先に送信する通知の集約。たとえば、次の各目的で個別のイベントセットを作成することができます。
 - 特定の個人または部署に送信される電子メール通知を特定のイベントに関するものだけにし、量を制限する。
 - 特定のイベントの発生をすべて syslog に書き込む。
 - 特定のイベントが発生した場合に SNMP トラップを送信する。

デバイススペースの通知基準を作成する場合は、基準の 1 つとして 1 つのイベントセットを含める必要があります。デフォルトのイベントセットである All_Events にはすべてのイベントが含まれます。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- [「処理されるイベント」\(P.E-1\)](#)

イベントセットの追加と編集

イベントセットを追加および編集するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Notifications] > [Event Sets] を選択します。
[Event Set] ページが表示され、次の表の情報が示されます。

GUI 要素	説明/処理
[Name] カラム	イベントセット名。
[Description] カラム	イベントセットの説明。

- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [Add] をクリックします。
 - イベントセットのチェックボックスを 1 つ選択して、[Edit] をクリックします。
- 選択した内容に応じて、[Add Event Set] または [Edit Event Set] ページが表示されます。

- ステップ 3** 次の表に示すように、ページの情報を編集します。

GUI 要素	説明/処理
[Event Set Name] フィールド	イベントセット名：イベントセット名を入力または編集します。
[Event Set Description] フィールド	イベントセットの説明：オプション。説明を入力します。
[Events] 表	
[Number] カラム	1 から順にイベントに付けられた番号。
[Check Box] カラム	オンにするとイベントがイベントセットに追加されます。 オフにするとイベントがイベントセットから削除されます。
[Event] カラム	イベントの説明。

- ステップ 4** [OK] をクリックして変更を保存します。

イベントセットの表示

イベントセットを表示するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Notifications] > [Event Sets] を選択します。
[Event Set] ページが表示され、次の表の情報が示されます。

GUI 要素	説明/処理
[Name] カラム	イベントセット名。
[Description] カラム	イベントセットの説明。

ステップ 2 イベント セットのチェックボックスをオンにして、[View] をクリックします。

[Event Set Summary] ダイアログボックスに次の情報が表示されます。

- Name : ユーザが指定した名前。
- Description : ユーザが指定した説明。
- Events : イベント セットのイベントのリスト。

イベント セットの削除

イベント セットを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Notifications] > [Event Sets] を選択します。

[Event Set] ページが表示され、次の表の情報が示されます。

GUI 要素	説明
[Name] カラム	イベント セット名。
[Description] カラム	イベント セットの説明。

ステップ 2 削除する各イベント セットの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Delete] をクリックします。

確認ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 確認のために [Yes] をクリックします。

詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「処理されるイベント」(P.E-1)

通知の設定

[Notification Groups] ページで通知管理アクティビティを実行します。[Notification Groups] ページを開くには、[Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] の順に選択します。

通知基準機能には、次のロール ルールがあります。

- システム ID ユーザ（インストール時に作成される）は、作成されるすべての通知基準を確認し、それらを編集できます。
- ネットワーク管理者は、作成および編集が許可されているカスタマー用に管理者が作成した通知基準だけを表示できます。
- ネットワーク オペレータにはアクセス権がありません。

[Role Management Setup] では、各ロールに関連付けられているタスクを表示するためにコピー機能を使用できます。このロールが認可されているタスクを表示するには、ロールを選択し、[Copy] をクリックします。

次のトピックでは、[Notification Groups] ページから実行できるアクティビティについて説明します。

- 「デバイスの通知グループの追加と編集」 (P.15-10)
- 「サービス品質の通知グループの追加と編集」 (P.15-14)
- 「電話通知グループの追加と編集」 (P.15-19)
- 「通知グループのコピー」 (P.15-22)
- 「通知グループの設定の詳細の表示」 (P.15-23)
- 「通知グループの削除」 (P.15-23)
- 「通知の一時停止」 (P.15-23)
- 「通知の再開」 (P.15-25)
- 「デバイスが送信したイベントで表示されるデバイス タイプと値のマッピング」 (P.15-25)
- 「ユーザへの EPM ログ更新の通知」 (P.15-27)

図 15-1 に、[Notification Groups] ページの表示例を示します。

図 15-1 Notification Groups ページ

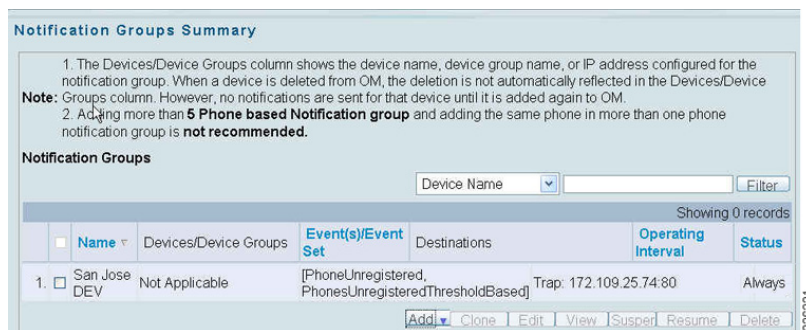


表 15-2 は、[Notification Groups] ページのフィールドについて説明しています。

表 15-2 Notification Groups ページのフィールド

GUI 要素	説明/処理
[Check Box] カラム	チェックボックスを 1 つ選択して、通知を編集または削除します。
[Name] カラム	通知グループの名前。
[Devices/Device] グループ	通知用に設定されたデバイス、デバイス グループ、またはクラスタ。
Event	通知を送信する原因となるイベントセット。
Destinations	送信される通知のタイプ (電子メール、SNMP トラップ、または syslog メッセージ)、および通知の送信先のホスト名と電子メール受信者。 [Destinations] ボックスに表示される情報には文字制限があります。情報が制限を超えると、省略を意味する「...」が表示されます。ツールチップにすべての情報が表示されます。

表 15-2 Notification Groups ページのフィールド (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
Operating Interval	登録をアクティブにする時間帯。
Status	通知グループのステータス。これは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • Active : Prime UOM は該当の通知グループを使用してイベントを監視し、いつ通知を送信するかを決定しています。 • Suspended : 通知が手動で停止されています。Prime UOM は再開しない限りその通知グループを使用しません。 • Inactive : 通知グループがアクティブにスケジュールされていない時間帯。
[Filter] ドロップダウンメニュー / [Filter] ボタン	[Notifications Group] ページで表示する項目をフィルタリングできます。
[Add] > [Device-Based Criterion] ボタン	クリックすると、デバイスの通知グループが追加されます。「 デバイスの通知グループの追加と編集 」(P.15-10) を参照してください。
[Add] > [Service Quality-Based Criterion] ボタン	クリックすると、サービス品質の通知グループが追加されます。「 サービス品質の通知グループの追加と編集 」(P.15-14) を参照してください。 サービス品質ベースの基準は、Service Monitor のライセンスを購入している場合にだけ有効に使用できます。
[Clone] ボタン	現在の通知グループをテンプレートとして使用し、通知グループを追加するプロセスを開始します。「 通知グループのコピー 」(P.15-22) を参照してください。 電話機数が最大 10,000 台に制限されているため、電話ベースの通知グループのコピーはサポートされていません。
[Edit] ボタン	クリックして通知基準を編集します。「 デバイスの通知グループの追加と編集 」(P.15-10) および「 サービス品質の通知グループの追加と編集 」(P.15-14) を参照してください。
[View] ボタン	通知グループの設定情報が表示される [Notification Group Summary] ページを表示します。
[Suspend] ボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 特定のホストへの通知の送信を一時的に停止します。 • 特定のデバイス グループに関する通知の送信を一時的に停止します。つまり、スケジュールされた通知の実行時間を上書きします。 「 通知の一時停止 」(P.15-23) を参照してください。
[Resume] ボタン	<ul style="list-style-type: none"> • 特定のホストへの通知の送信を再開します。 • 以前に一時停止した通知を使用して特定のデバイス グループに関する通知の送信を開始します。 「 通知の再開 」(P.15-25) を参照してください。
[Delete] ボタン	クリックすると、通知グループが削除されます。「 通知グループの削除 」(P.15-23) を参照してください。

次に、作成する通知グループの最大数の推奨ガイドラインを示します。停止状態の通知グループも数に含まれます。

400 台を超えるデバイスを持つ通知グループの最大数

- 2,000 台以内の電話機を含む、5 つの電話ベースの通知グループ。
- 2,000 台以内のデバイスを含む、1 つのデバイス ベースの通知グループ。
- 1 つのサービス品質の通知グループ

デバイスの通知グループの追加と編集

この項では、デバイスの通知グループの追加と編集の手順について説明します。



(注)

既存の通知グループをテンプレートとして使用し、新しい通知グループを作成することもできます。手順については「[通知グループのコピー](#)」(P.15-22)を参照してください。

デバイスの通知グループを追加および編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しい基準を追加するには、[Add] > [Device-Based Criterion] をクリックします。
- 既存の基準を編集するには、デバイスの通知グループのチェックボックスをオンにして、[Edit] をクリックします。

選択した内容に応じて、[Add Device-Based Criterion] ページまたは [Edit Device-Based Criterion] ページが表示されます。

- [Notification] のクラスタを追加または編集するには、[Cisco Unified Communications Manager or Cluster] グループで使用できるクラスタを選択します。クラスタの名前には VE-プレフィックスがあります。
- [Diagnostics] テスト用に設定された電話を追加または編集するには、[System Defined Groups/Phones] でテストが設定された電話を選択します。

ステップ 3 次の表に示すように、ページの情報を編集します。

表 15-3 デバイスベースの基準

GUI 要素	説明/処理
[Device selector] ペイン	デバイス グループのフォルダを展開して、1 つ以上のデバイス、デバイスグループ、またはクラスタのチェックボックスをオンにします。 デバイス グループを選択する場合は、「 [Include updates to group membership] チェックボックス 」(P.15-11)も選択している場合にのみ、Prime UOM でデバイスの追加または削除があったときに通知基準が最新の状態に保たれます。
[Criterion Name] フィールド	通知基準の名前を入力します。
[Customer Identification] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer ID: -

表 15-3 デバイスペースの基準 (続き)

GUI 要素	説明/処理
[Customer Revision] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer Revision: *
[Event Set Type] リストボックス	いずれか 1 つを選択します。
[Event Severity] チェックボックス	選択しないか、次の 1 つまたは複数を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Critical • Warning • Informational
[Event Status] チェックボックス	選択しないか、次の 1 つまたは複数を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Active • Acknowledged • Cleared • User Cleared
[Include updates to group membership] チェックボックス	オンの場合、Prime UOM でデバイスの追加または削除があった場合に、通知基準でもそのデバイスが追加または削除されます。このような動作は、該当のデバイスが属するデバイスグループが通知基準に含まれている場合に発生します。 通知基準に含まれるすべてのデバイスグループでデバイスのスタティックなリストを保持する場合は、オフにします。

ステップ 4 [Next] をクリックします。

[The Destination: Edit Device-Based Criterion] ページが表示されます。

ステップ 5 次の表に示すように、このページの情報を編集します。

表 15-4 デバイス基準の編集

GUI 要素	説明/処理
[Always Active] チェックボックス	通知グループが常にアクティブになるようにスケジュールします。
[Active From: To:] フィールド	通知グループをアクティブにする時間帯を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • From: HH:MM : 登録がアクティブになる時間および分を選択します。 • To: HH:MM : 登録がアクティブな期間の最後の時間および分を選択します。 デフォルトでは、これらの値は 00:00 から 00:00 までで、登録は 24 時間アクティブになっています。 たとえば、あるシフトでは電子メール通知を送信し、別のシフトでは送信しないようにする場合にこのフィールドを使用します。

表 15-4 デバイス基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明/処理
[Include Link to Notification Details] チェックボックス	ユーザが詳細を確認するために Prime UOM で関連ページを直接開くことのできる URL を通知に含める場合は、オンにします。 通知から URL を省略する場合はオフにします。
[Subscription Type] オプション ボタン	該当の登録に含める登録タイプを一度に 1 つずつ選択し、データを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> Trap : 「[Trap Subscription Type] フィールド」 (P.15-12) にデータを入力します。 E-Mail : 「[E-Mail Subscription Type] フィールド」 (P.15-12) にデータを入力します。 Syslog : 「[Syslog Subscription Type] フィールド」 (P.15-13) にデータを入力します。 Prime UOM は、[Subscription: Summary] ページの [Finish] をクリックするまで入力されたデータを保存しません。[Subscription: Summary] ページに移動するには、[Next] をクリックします。
[Trap Subscription Type] フィールド	
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	ホストがトラップを受信できるポート番号を入力します。有効なポートの値は、0 ~ 65,535 です。デフォルトのポート番号 162 を入力することもできます。
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメントを入力します。
[E-Mail Subscription Type] フィールド	
[SMTP Server] フィールド	Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを入力します (デフォルトの SMTP サーバの名前がすでに表示されている場合もあります)。 既存の登録によって使用されているデフォルト以外の任意の SMTP サーバを選択するには、SMTP Servers ボタンをクリックします。 デフォルト SMTP サーバの設定手順については、「[System Preferences] を使用したシステム全体のパラメータの設定」 (P.20-18) を参照してください。
[Sender Address] フィールド	通知の送信元の電子メール アドレスを入力します。送信者の電子メール サービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。
[Recipient Address(es)] フィールド	通知の送信先となる 1 つ以上の電子メール アドレスを入力します。複数のアドレスはカンマまたはセミコロンで区切ります。 受信者の電子メール サービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。
[Subject Only] チェックボックス	電子メール メッセージにサブジェクトだけを含める場合はオンにします。詳細な電子メール メッセージを送信する場合はオフにします (デフォルト)。

表 15-4 デバイス基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[Syslog Subscription Type] フィールド	
[Facility] リスト	<p>リストから機能を 1 つ選択します (デフォルトは Local Use 0)。 [Facility] フィールドとイベントの重大度は、次のように syslog メッセージの PRI 部分に使用されます。</p> <p style="text-align: center;">[Facility*8][Severity]</p> <p>イベントの重大度の値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Critical = 2 • Warning = 4 • Informational = 6
[Location] フィールド	(任意) 場所の情報を入力します (29 文字まで)。この情報が syslog メッセージに表示されます。
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	<p>syslog デーモンがリスニングを行うポート番号を入力します。有効なポートの値は、0 ~ 65,535 です。デフォルトのポート番号 514 を入力することもできます。</p> <p>リモート システム (ホスト名) の syslog デーモンが指定したポートでリスニングを行うように設定しておく必要があります。</p>
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメント。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

[Notification Group Summary] ページに、前のページで入力されたすべての情報が表示されます。

ステップ 7 [Finish] をクリックします。

通知情報が保存されます。

サービス品質の通知グループの追加と編集

この項では、サービス品質の通知グループの追加と編集の手順について説明します。



(注) 既存の通知グループをテンプレートとして使用し、新しい通知グループを作成することもできます。手順については「[通知グループのコピー](#)」(P.15-22)を参照してください。

サービス品質の通知グループを追加および編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいグループを追加するには、[Add] > [Service Quality-Based Criterion] をクリックします。
- 既存のグループを編集するには、サービス品質の通知グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[Edit] をクリックします。

選択した内容に応じて、[Add Service Quality-Based Criterion] ページまたは [Edit Service Quality-Based Criterion] ページが表示されます。

ステップ 3 次の表に示すように、ページの情報を編集します。

表 15-5 サービス品質ベースの基準

GUI 要素	説明 / 処理
[Notification Criterion] フィールド	通知基準の名前を入力します。
[Customer Identification] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer ID: -
[Customer Revision] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer Revision: *
[Destination] フィールド	コール先でイベントに関する通知を生成するには、次の手順を実行します。 1. 演算子を選択します (Is Exactly、Contains、Begins With、Any)。 2. 適切な値を入力します。音声ゲートウェイや電話などのエンドポイントの内線番号または IP アドレスです。
[Source] フィールド	コール元でイベントに関する通知を生成するには、次の手順を実行します。 1. 演算子を選択します (Is Exactly、Contains、Begins With、Any)。 2. 適切な値を入力します。音声ゲートウェイまたは電話の内線番号または IP アドレスです。

表 15-5 サービス品質ベースの基準 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[Sensor MAC] フィールド	<p>特定の Cisco 1040 センサーでイベントに関する通知を生成するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演算子を選択します (Is Exactly、Contains、Begins With、Any)。 2. Cisco 1040 センサーの MAC アドレスを入力します。
[Cluster ID] フィールド	<p>特定のクラスタでイベントに関する通知を生成するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演算子を選択します (Is Exactly、Contains、Begins With、Any)。 2. クラスタ ID を入力します。
[Listener] または [Speaker Phone Model] リスト	<p>特定の電話モデルでイベントに関する通知を生成するには、Cisco Unified IP Phone モデルをカンマで区切って入力するか、次のようにしてリストからモデルを選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アイコンをクリックしてセレクタを開きます。 2. リストから電話モデルを選択します。 複数の電話モデルを選択するには、Ctrl キーを押しながら選択します。 3. [OK] をクリックします。
[Event Severity] チェックボックス	<p>次のいずれかをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Critical • Informational • Warning
[Event Description] チェックボックス	<p>次のいずれかをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Service Quality Issue • Sensor Down <p>これらのイベントの詳細については、「処理されるイベント」(P.E-1)を参照してください。</p>
[Cause] チェックボックス	<p>次のいずれかをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Jitter • Packet Loss

- ステップ 4** [Next] をクリックします。
[The Destination: Edit Qov Criteria] ページが表示されます。

ステップ 5 次の表に示すように、このページの情報を編集します。

表 15-6 品質ベースの基準の編集

GUI 要素	説明 / 処理
[Always Active] チェックボックス	通知グループが常にアクティブになるようにスケジュールします。
[Active From: To:] フィールド	<p>登録をアクティブにする時間帯を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> From: HH:MM : 登録がアクティブになる時間および分を選択します。 To: HH:MM : 登録がアクティブな期間の最後の時間および分を選択します。 <p>デフォルトでは、これらの値は 00:00 から 00:00 までで、登録は 24 時間アクティブになっています。</p> <p>たとえば、あるシフトでは電子メール通知を送信し、別のシフトでは送信しないようにする場合にこのフィールドを使用します。</p>
[Include Link to Notification Details] チェックボックス	<p>ユーザが詳細を確認するために Prime UOM で関連ページを直接開くことのできる URL を通知に含める場合は、オンにします。</p> <p>通知から URL を省略する場合はオフにします。</p>
[Subscription Type] オプション ボタン	<p>該当の登録に含める登録タイプを一度に 1 つずつ選択し、データを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Trap : 「[Trap Subscription Type] フィールド」 (P.15-16) にデータを入力します。 E-Mail : 「[E-Mail Subscription Type] フィールド」 (P.15-16) にデータを入力します。 Syslog : 「[Syslog Subscription Type] フィールド」 (P.15-18) にデータを入力します。 <p>Prime UOM は、[Subscription: Summary] ページの [Finish] をクリックするまで入力されたデータを保存しません。[Subscription: Summary] ページに移動するには、[Next] をクリックします。</p>
[Trap Subscription Type] フィールド	
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	ホストがトラップを受信できるポート番号を入力します。ポート番号を指定しない (空白) ままにすると、デフォルトでポート 162 に設定されます。
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメントを入力します。
[E-Mail Subscription Type] フィールド	

表 15-6 品質ベースの基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[SMTP Server] フィールド	<p>Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを入力します (デフォルトの SMTP サーバの名前がすでに表示されている場合もあります)。</p> <p>既存の登録によって使用されているデフォルト以外の任意の SMTP サーバを選択するには、SMTP Servers ボタンをクリックします。</p> <p>デフォルト SMTP サーバの設定手順については、「[System Preferences] を使用したシステム全体のパラメータの設定」(P.20-18) を参照してください。</p>
[Sender Address] フィールド	<p>通知の送信元の電子メール アドレスを入力します。送信者の電子メール サービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。</p>
[Recipient Address(es)] フィールド	<p>通知の送信先となる 1 つ以上の電子メール アドレスを入力します。複数のアドレスはカンマまたはセミコロンで区切ります。</p> <p>受信者の電子メール サービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。</p>
[Subject Only] チェックボックス	<p>電子メール メッセージにサブジェクトだけを含める場合はオンにします。詳細な電子メール メッセージを送信する場合はオフにします (デフォルト)。</p>

表 15-6 品質ベースの基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[Syslog Subscription Type] フィールド	
[Facility] リスト	<p>リストから機能を 1 つ選択します (デフォルトは Local Use 0)。 [Facility] フィールドとイベントの重大度は、次のように syslog メッセージの PRI 部分に使用されます。</p> <p style="text-align: center;">[Facility*8][Severity]</p> <p>イベントの重大度の値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Critical = 2 • Warning = 4 • Informational = 6
[Location] フィールド	(任意) 場所の情報を入力します (29 文字まで)。この情報が syslog メッセージに表示されます。
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	<p>syslog デーモンがリスニングを行うポート番号を入力します。有効なポートの値は、0 ~ 65,535 です。デフォルトのポート番号 514 を入力することもできます。</p> <p>リモートシステム (ホスト名) の syslog デーモンが指定したポートでリスニングを行うように設定しておく必要があります。</p>
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメント。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

[Notification Group Summary] ページに、前のページで入力されたすべての情報が表示されます。

ステップ 7 [Finish] をクリックします。

通知情報が保存されます。

電話通知グループの追加と編集

この項では、電話通知グループの追加と編集の手順について説明します。



(注)

電話通知グループの最大数は 5 つです。各通知グループは 2,000 台の電話機を含めることができます。電話機数が最大 10,000 台に制限されているため、電話通知グループのコピーはサポートされていません。

電話通知グループを追加および編集するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。
[Phone-Based Notification Criteria] > [Phone Report] を選択すると、各電話は 2 つの電話のエントリを表示します。電話のエントリには 2 つのディレクトリ番号または内線番号 (DN) が含まれます。10,000 台の電話を利用するには、2 つのエントリのうちいずれかを選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 新しい基準を追加するには、[Add] > [Phone-Based Criterion] をクリックします。
 - 既存の基準を編集するには、電話通知グループのチェックボックスをオンにして [Edit] をクリックします。
- 選択した内容に応じて、[Phone-Based Criterion] ページまたは [Edit Phone-Based Criterion] ページが表示されます。
- ステップ 3** 表 15-7 に示すように、ページの情報を編集します。

表 15-7 電話ベースの基準

GUI 要素	説明 / 処理
[Criterion Name] フィールド	通知基準の名前を入力します。
[Customer Identification] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer ID: -
[Customer Revision] フィールド	適切な識別情報を入力します。このフィールドが空白のままの場合は、電子メール通知と syslog 通知では空白が表示されます。 SNMP トラップ通知では、次のように表示されます。 Customer Revision: *

表 15-7 電話ベースの基準 (続き)

GUI 要素	説明/処理
Unified CM/Unified CM Express-Based Event Threshold	<p>Unified CM または Unified CM Express ベースのイベントのしきい値を入力します。使用可能な値は、1 ~ 20 です。デフォルト値は 5 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> この通知グループで選択されている未登録の電話の数が Unified CM または Unified CM Express ベースのイベントのしきい値を超えた場合、Unified Communications Manager のグループ イベント (PhonesUnregisteredThresholdBased) が作成されます。 しきい値より少ない場合、個別の PhoneUnregistered イベントが作成されます。 <p>未登録状態の Energywise Power Save Plus モードの電話機は、通知サービスの対象にはなりません。</p> <p>Prime UOM は、PhoneUnregistered イベントのトラップ通知 (Phone Notification) の cenEventIdList で電話の MAC アドレスを表示します。Phone Notification トラップで使用されるのと同じトラップが CISCO-EPM-Notification イベントで使用されます。</p>
Selected Phones	<p>[Add From Phone Report] をクリックして、電話レポートを表示します。選択した電話がこのテキスト領域に表示されます。</p> <p>5 つを超える電話通知グループを追加する場合、同じ電話を複数の電話通知グループに追加することは推奨されていません。</p>
[Add From Phone Report] ボタン	<p>[All IP Phones/Lines] レポートを表示します。このレポートから基準に対する電話を選択できます。電話ベースの通知グループごとの最大電話機数は、2,000 台です。</p>

ステップ 4 [Next] をクリックします。

選択した数の電話が表示されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

[Destination: Add or Edit Phone-Based Criterion] ページが表示されます。

ステップ 6 表 15-8 (P.15-20) に示すように、このページの情報を編集します。

表 15-8 電話の基準の編集

GUI 要素	説明/処理
[Always Active] チェックボックス	通知グループが常にアクティブになるようにスケジュールします。
[Active From: To:] フィールド	<p>通知グループをアクティブにする時間帯を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> From: HH:MM : 登録がアクティブになる時間および分を選択します。 To: HH:MM : 登録がアクティブな期間の最後の時間および分を選択します。 <p>デフォルトでは、これらの値は 00:00 から 00:00 までで、登録は 24 時間アクティブになっています。</p> <p>たとえば、あるシフトではポケットベルに電子メール通知を送信し、別のシフトでは送信しないようにする場合にこのフィールドを使用します。</p>

表 15-8 電話の基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[Subscription Type] オプション ボタン	<p>該当の登録に含める登録タイプを一度に 1 つずつ選択し、データを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Trap : 「[Trap Subscription Type] フィールド」 (P.15-12) にデータを入力します。 E-Mail : 「[E-Mail Subscription Type] フィールド」 (P.15-12) にデータを入力します。 Syslog : 「[Syslog Subscription Type] フィールド」 (P.15-13) にデータを入力します。 <p>Prime UOM は、[Subscription: Summary] ページの [Finish] をクリックするまで入力されたデータを保存しません。[Subscription: Summary] ページに移動するには、[Next] をクリックします。</p>
[Trap Subscription Type] フィールド	
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	ホストがトラップを受信できるポート番号を入力します。有効なポートの値は、0 ~ 65,535 です。デフォルトのポート番号 162 を入力することもできます。
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメントを入力します。
[E-Mail Subscription Type] フィールド	
[SMTP Server] フィールド	<p>Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバの完全修飾 DNS 名または IP アドレスを入力します (デフォルトの SMTP サーバの名前がすでに表示されている場合もあります)。</p> <p>既存の登録によって使用されているデフォルト以外の任意の SMTP サーバを選択するには、SMTP Servers ボタンをクリックします。</p> <p>デフォルト SMTP サーバの設定手順については、「[System Preferences] を使用したシステム全体のパラメータの設定」 (P.20-18) を参照してください。</p>
[Sender Address] フィールド	通知の送信元の電子メール アドレスを入力します。送信者の電子メールサービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。
[Recipient Address(es)] フィールド	<p>通知の送信先となる 1 つ以上の電子メール アドレスを入力します。複数のアドレスはカンマまたはセミコロンで区切ります。</p> <p>受信者の電子メール サービスが指定した SMTP サーバでホストされている場合は、ユーザ名だけを入力します。ドメイン名を入力する必要はありません。</p>
[Subject Only] チェックボックス	電子メール メッセージにサブジェクトだけを含める場合はオンにします。詳細な電子メール メッセージを送信する場合はオフにします (デフォルト)。
[Syslog Subscription Type] フィールド	

表 15-8 電話の基準の編集 (続き)

GUI 要素	説明 / 処理
[Facility] リスト	リストから機能を 1 つ選択します (デフォルトは Local Use 0)。 [Facility] フィールドとイベントの重大度は、次のように syslog メッセージの PRI 部分に使用されます。 [Facility*8][Severity] イベントの重大度の値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Critical = 2 • Warning = 4 • Informational = 6
[Location] フィールド	(任意) 場所の情報を入力します (29 文字まで)。この情報が syslog メッセージに表示されます。
[IP Address/Fully Qualified Domain Name] 編集可能カラム	ホストの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。
[Port] 編集可能カラム	syslog デーモンがリスニングを行うポート番号を入力します。有効なポートの値は、0 ~ 65,535 です。デフォルトのポート番号 514 を入力することもできます。 リモート システム (ホスト名) の syslog デーモンが指定したポートでリスニングを行うように設定しておく必要があります。
[Comments] 編集可能カラム	(任意) コメント。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

[Notification Group Summary] ページに、前のページで入力されたすべての情報が表示されます。

ステップ 8 [Finish] をクリックします。

通知情報が保存されます。

通知グループのコピー

既存の通知グループをテンプレートとして使用し、新しい通知グループを作成することもできます。



注意

電話機数が最大 10,000 台に制限されているため、電話通知グループのコピーはサポートされていません。

通知グループをクローニングするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。

[Notification Groups Summary] ページが表示されます。

ステップ 2 新しい通知グループの基本として使用する通知グループの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Clone] をクリックします。

選択した内容に応じて、[Clone Device-Based Criterion] ページまたは [Clone Service Quality-Based Criterion] ページが表示されます。

通知グループのコピーの残りの手順は、通知グループの編集の手順と同じです。手順の詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「デバイスの通知グループの追加と編集」(P.15-10)
- 「サービス品質の通知グループの追加と編集」(P.15-14)

通知グループの設定の詳細の表示

通知グループの設定の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。
[Notification Groups Summary] ページが表示されます。
 - ステップ 2** 通知グループの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [View] をクリックします。
 - ステップ 4** [Notification Group Summary] ページに次の情報が表示されます。
 - 通知の名前。
 - 通知グループの詳細：イベントおよびデバイス タイプの情報。
 - 宛先の詳細：トラップ、電子メール、または syslog の宛先情報。
-

通知グループの削除

通知グループを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。
[Notification Groups Summary] ページが表示されます。
 - ステップ 2** 削除する各通知グループの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [Delete] をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** 確認のために [Yes] をクリックします。
-

通知の一時停止

通知を一時停止すると、Prime UOM は通知が再開されるまでその通知の使用を停止します（「通知の再開」(P.15-25) を参照）。

登録は、いつでも一時停止および再開できます。また、1 日の間に通知をアクティブにする期間をスケジュールすることもできます。詳細については、「[デバイスの通知グループの追加と編集](#)」(P.15-10)を参照してください。

通知を一時停止した後も、[Suspend] ボタンが有効であるように見える場合があります。すでに一時停止されている通知を一時停止できません。[Suspend] ボタンをクリックしても、通知に影響はありません。通知のステータスを判断するには、[Notification Groups] ページを使用します。

任意のタイプの通知を一時停止するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。
 - ステップ 2** [Notifications Group Summary] ページが表示されます。一時停止する各通知グループの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** [Suspend] をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** 確認のために [Yes] をクリックします。
-

通知の再開

通知は、ステータスが [Suspended] の場合にだけ再開できます。通知を再開すると、通知グループが再開された時間、およびその通知グループの時刻設定に応じて、通知がアクティブまたは非アクティブになります。

通知グループの再開によってその通知グループの時刻設定が上書きされることはありません。通知グループは一時停止前と同じ動作を再開します。



(注) 通知グループの再開は、通知グループが一時停止された後、つまり通知グループが [Suspended] 状態にある場合にだけ実行できます。[Resume] ボタンが有効になっていても、非アクティブの時間帯 ([Inactive] 状態) では通知グループを再開できません。

任意のタイプの一時停止された通知を再開するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Notifications] > [Notification Criteria] を選択します。
[Notification Group Summary] ページが表示されます。
- ステップ 2** 再開する各通知グループの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [Resume] をクリックします。
確認ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** 確認のために [Yes] をクリックします。
-

デバイスが送信したイベントで表示されるデバイス タイプと値のマッピング

Prime UOM で表示するデバイス タイプが表 15-9 (P.15-26) に一覧表示されています。デバイス レポートに表示されるデバイス タイプは、通知で表示されるデバイス タイプとは異なります。通知でのデバイス タイプはプライマリのデバイス機能を示し、デバイス リストの情報よりも詳細に表示されません。

これらのデバイス タイプは [Device type (MANAGED OBJECT)] として表示されます。たとえば、[[12] cenAlarmEntry.cenAlarmManagedObjectClass.0 (OctetString): VoiceGateway] のように表示されます。

最新のデバイス リストについては、『Supported and Interoperable Devices and Software Table for Cisco Prime Unified Operations Manager』を参照してください。

デバイス タイプの情報は、次の 3 種類の通知に分類されます。

- 「デバイス ベースの通知」 (P.15-26)
- 「サービス品質ベースの通知」 (P.15-26)
- 「電話ベースの通知」 (P.15-26)

表 15-9 通知のデバイス タイプのカテゴリ

通知カテゴリ	デバイス タイプ ¹
デバイス ベースの通知	<ul style="list-style-type: none"> • メディア サーバ • 音声ゲートウェイ • ルータ • IP Phone • スイッチ • Cisco Unified Communications Manager/Unified CM • PhoneAccessSwitch • IPCC • CUE/Unity Express • カスタマー • ゲートキーパー • Cisco Unified Communications Manager または Cluster • ハブ • ホスト • ファイアウォール • MSFC • ブリッジ • RSM
サービス品質ベースの通知	<ul style="list-style-type: none"> • エンドポイント • 電話
電話ベースの通知	<ul style="list-style-type: none"> • IP Phone • Unified CM • Unified CM Express

1. デバイス タイプはデバイスから直接送信され、変更されることがあります。通知メッセージの詳細については、ご使用のデバイス マニュアルを参照してください。

ユーザへの EPM ログ更新の通知

次の EPM ログ ファイルの更新が、通知の一部として含まれています。

- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\EPMDroppedEvents.log`
- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\ClearedDroppedEvents.log`
- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\FloodDroppedEvents.log`

EPM ログが更新されたときに電子メール通知を送信するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** `NMSROOT\objects\nots\config\nots_epmFloodLog.properties` ファイルを任意のエディタで編集します。
- ステップ 2** `[notifyEpmDrop]` プロパティのデフォルト値を `[No]` から `[Yes]` に変更し、EPM ログ更新の通知を有効にします。
- ステップ 3** `[emailID]` プロパティの `[receiver email address]` で通知が送信される電子メールアドレスを追加します。
- その他のオプションの設定を変更するには、次の手順に従います。
- ポーリング時間を変更するには、`[confCheckInterval]` プロパティで最短 30 分から最長 7 日までの時間を設定します。この値はミリ秒単位で設定する必要があります。デフォルト値は 2 時間 (7,200,000 ミリ秒) です。
 - 通知で送信する電子メールのメッセージを変更するには、`[emailMsg]` プロパティを更新します。
- ステップ 4** `[Administration] > [Preferences] > [SMTP Server]` で SMTP サーバを指定します。
- ステップ 5** ファイルを保存して、閉じます。
-

`notes_epmFloodLog.properties` ファイルで行ったすべての変更は、デフォルトで 2 時間後に反映されません。これは `confCheckInterval` 設定で指定した時間間隔に基づきます。

たとえば、`notifyEpmDrop` 設定を `Yes` に変更した場合、EPM ログ更新の電子メールの受信を開始するのは 2 回目のサイクルが開始された後になります。

Prime UOM ですぐに変更を反映させる場合は、`NOTSServer` を再起動する必要があります。このプロセスの再起動の詳細については、「[Prime UOM プロセスの起動と停止](#)」(P.20-41) を参照してください。

次の EPM ログ ファイルの更新が、通知の一部として含まれています。

- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\EPMDroppedEvents.log`
- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\ClearedDroppedEvents.log`
- `NMSROOT\log\CUOM\EPM\FloodDroppedEvents.log`

